



ゲノム医療に対する取り組み

ゲノム医療実用化への期待の高まり

全ゲノム解析のために要する時間や費用はこの10年で大幅に進歩し、現在では1人分が数日・約10万円程度にまでなっているとも言われています。ゲノム医療によって、個々人の体質や病状に適した効果的・効率的な患者の診断、治療、予防が可能になると言われており、ゲノム医療実用化への期待は急速に高まっています。

ゲノム医療推進の課題

ゲノム医療は、これまでの我が国の医療の在り方を根本から変える可能性があります。課題もあります。ゲノムデータの管理と二次利用や、遺伝子関連検査の品質や精度の確保の仕組み、そして、ゲノム情報に基づく差別の防止等の社会環境整備を行うことが必要です。

特に注目される分野

ゲノム医療の実用化という意味では、特に、がん、難病の分野では実用化が進んでおり、新しい診断法や治療法の開発や、個別化医療が可能となる可能性も大きく、世界的にも注目されています。

厚生労働省と医系技官の役割

ゲノム医療の推進は、様々な分野が連携して取り組む国家的ビッグプロジェクトですが、医療・健康・介護分野を所管する厚生労働省の役割は大きく、その中でも、医系技官は専門的な知識等を生かして、その核になっています。

ゲノム医療推進についての欧米との比較

アメリカ

オバマ米大統領が発表したプレジジョン・メディスン・イニシアティブの下、遺伝子、環境、ライフスタイルに関する個人ごとの違いを考慮した予防や治療法の確立を目指し、100万人以上のボランティアからなるゲノムコホートの設立等を含む、ゲノム情報を活用した個別化医療の実現に向けた計画を進めています。

イギリス

イギリスのキャメロン首相は、ゲノミクス・イングランドという国家プロジェクトを提唱し、2013年から2017年までの5か年計画として、約10万人を対象に、官民連携によるがん、希少疾患等についてのゲノム情報の解析・研究を行っています。

日本

ゲノム医療の実用化に向けた我が国の取組は欧米に比べ出遅れていましたが、厚生労働大臣の指示の下、健康・医療戦略室などと協力し、タスクフォースを立ち上げ、国民皆保険制度というアドバンテージを活かした施策を関係省庁と連携して推進しています。



内閣官房健康・医療戦略室
大坪 寛子 参事官

政府の健康・医療戦略の中心となっているのが、内閣官房健康・医療戦略室です。省庁間のとりまとめ等を行っています。



大臣官房厚生科学課
椎葉 茂樹 課長

厚生科学課では、省内の多部署にまたがるゲノム医療推進の全体調整を担っています。私は、省内のゲノム医療実現推進本部幹事会の幹事長をしています。



大臣官房厚生科学課
岡田 就将 課長補佐

私は、幹事長の指示の下、省内の各部署との調整を担当しています。また、研究事業全体のとりまとめを担当しています。



医政局総務課
勝山 佳菜子 専門官

医政局では、研究開発の推進や検査の質の確保を担当しています。私は薬系技官ですが、様々な職種がその特性を生かしながら、協力して検討を進めています。



大臣官房厚生科学課
石丸 文至 主査

研究のルールの整備を担当しています。ビッグデータ時代が到来する中、個人情報保護法が改正され、新たな仕組みが必要になっています。



大臣官房厚生科学課
佐藤 晃一 主査

遺伝子治療研究の担当をしています。人事交流で厚労省に来ており、ゲノム医療の分野では、臨床経験を活かして、新しい施策の企画立案を行っています。



保険局医療課
林 修一郎 課長補佐

保険局医療課では診療報酬を担当しています。ゲノム医療の推進に向けては、日本の強みでもある保険診療の整備も重要です。



健康局がん・疾病対策課
秋月 玲子 課長補佐

がん対策の担当です。がんの発症にかかわる遺伝子の特定や、クリニカルシーケンスによる個別化医療の実現などが求められています。



健康局難病対策課
前田 彰久 課長補佐

私は、難病分野の担当をしています。希少疾患が多い難病では、ゲノム医療は新しい診断法や治療法の開発等につながるのではと期待されています。